

思いでの先生方

山本直四郎先生

父・山本直四郎

長男 山本誠一（43回生）

父、山本直四郎は平成12年8月13日午後7時10分、肺癌にて死亡いたしました。享年78歳です。父直四郎の思い出を同窓会誌にとのご依頼をいただき、息子として家庭での父、教え子を通しての父の思い出を書かせていただきます。

父を語るとき、やはり、酒、野球、釣り、麻雀、囲碁をはずすわけにはいきません。「姓は山本、名を四郎」というツカミで授業をはじめたと思います。数学の授業の事については皆様方が詳しいと思いますので省かせていただきます。というのも、父は



若い頃、職員室で

酒の話をご紹介します。私が土佐高を卒業するまでに父が担任をしたのは33回、36回、39回、42回です。ちょうど、日本の経済復興期、社会全体に力がみなぎっていた時代だと思います。33回の猛者は運動会の後、居酒屋業で集まって呑んでいた様で、次の日に父に呼び出され、「おんしゃら、昨夜葉で呑

むしる数学以外の事で先輩、同僚、生徒の皆様可愛さうに愛されていたと思うからです。ただ数学の単位に関する話で、こんなことがありました。赤点をとった学生に友達が付

き添いで来て、「先生、俺の点数を分けちゃってください」と父に頼んだことがありました。「よし分かった。おんしの点をわけちゃる。そしたら、お前が赤点になるぞ」「いや、それも困る。一寸、待って下さい」と言つとで、4人ぐらいに声をかけたとか、教室のカートンを洗ったかで赤点を回避したということがあったそうです。



みよつたろが」と怒られたようです。

「いや、呑んでいません」証拠はあがつちゅうに、しらすをつき通したそうです。

こういう人達が正月にはまるで我が家のように私共の家にまゐります。母親が大晦日



運動会で（中央）

にはおせち料理を造るのです。が、33回のある人などはすでに呑んでいました。除夜の鐘が鳴る少し前に「先生、今年はお世話になりました。来年もよろしく」と言つて帰つてゆきます。この方は近所に住んでいましたので、何分もせずに「明けましておめでとうございます」と言つて、その

まま居続けです。ある年などは正月三ヶ日で一升ビンが何十本も空になつていました。

卒業生が毎年増えてゆくのは当然の理で、正月の再訪者があまりに多くなつて来ました。

ある年両親は一計を案じ、玄関に難問・珍問を掲示してこの問題を解いた者のみ入室下さいといつて待ちました。が、結果的には殆ど無駄でした。

悪とも（二山人達の弁による）

は玄関の問題を見ると、「失礼しました」と行つてすぐ出ていったのですが、「裏口入学です」と勝手口から堂々と入ってくるのです。又、厳格な親を持った生徒さんもおられまして、酔つて我が家に泊まった際、帰りづらくしているの、父は察して、確かに我が家に泊まりましたという証明書を書いて持たしたこともありました。二度も、三度も同じ手は使えんぞと釘を指したそうですが。

父の酒好きを端的に表す言



昭和34年頃（後列中央）

葉に、「直四郎、行きは7分、帰りは3時間」というのがあります。当時、北新町に住んでおりまして、出勤は自転車で7分ですみます。帰りは途中で中種の飲屋街がありますので、一寸、寄り道をちよくちよく、帰ってくるのはすぐ分かります。一寸先からその時々流行歌がなり立てて来るからです。「無法松の一生」、「一週間に十日来い」などはじっくり、子供の身体にしみ入ったものです。

あの昭和45年公風10号の時、私たちは祖父の葬式で母の実

家に行き、北新町には後で合流予定の父しかいなかったのですが、水位が上がる中借家の2階へ持って上がったものは電話と一升ビンだけでした。じつと、水がくるのを見ていたそうです。その後、たらいに酒とビールと水を入れて泳いで来た教え子の方と酒宴になりました。

もう時効でしょうから構わんと思いますが、当時は卒業式が終わると、私共の家に卒業生が来まして酒盛りとなるわけです。父も下手に街で騒がれるよりましと思つたのでしよう。ある年など、来た卒業生に黒板に名前を書いてゆけといった処、50〜60人位になったと思います。又、卒業記念に炊飯器を頂戴した事がありました。その方々は次の日にその炊飯器で炊いた朝食を食べてゆきました。釣りについてはマニアックです。とくにチヌ（黒鯛）は潮の干満に応じて夜中でも、早朝でもおかまいなしです。昼間にゴカイを掘り、後はチヌの都合に合わせます。ハゼ、エバ、手長海老すくい、鯉、真好きでないとやらない釣りです。麻雀のメンツは学校と関係のない人が多かったよう



二人の愛息と

に思います。県庁、京染屋、運送会社の方などで二日ぐらいの徹夜は平気でした。リンゴ箱でも勉強はできるといって、子供達の試験期間中もおかまいなしです。

本人は野球の経験が無いのですが、野球部は気に入つてやっていたようです。籠尾先生にバトンタッチしてからは裏方に回り、高野連の仕事をさせて頂き、それなりに職務を全つてきたと思います。碁将棋、そうそう、パチンコと色々な話がありますが、この辺で。

土佐湾と吉野川の魚（イオ）を大分、しでちゅうぎ、骨でもまいて、勘弁してもらつてくれ。これが本音かも知れません。